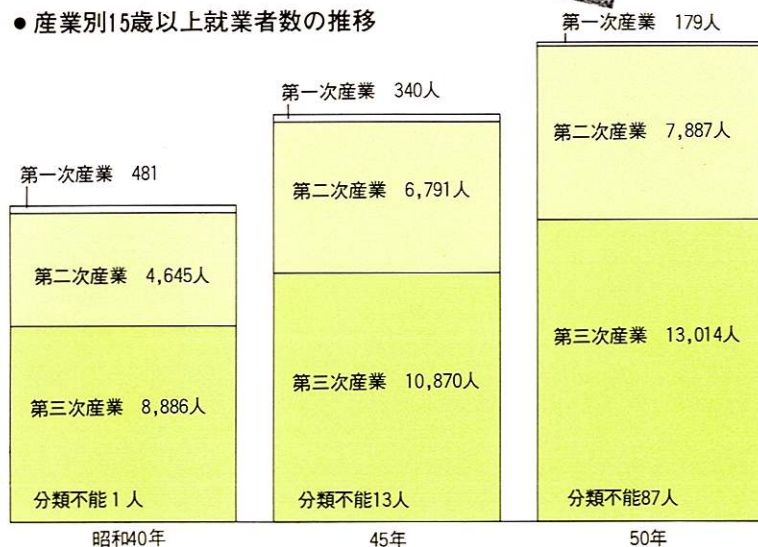


晴耕雨読市民

総面積のわずか6%弱。これが、現在の福生の耕地面積ですが、最近、市民のあいだでこの耕地の一部を借りて、手づくりの野菜などを楽しむ人びとが増えています。“緑と土”に恵まれない都会人にとって、市民農園は実益をかねたレジャーとして、ちょっとしたブームをよんでいます。



● 産業別15歳以上就業者数の推移



西多摩をリードする商業へ

● 福生駅を中心とした商業地域の整備を

市は長いあいだ、西多摩地域の表玄関として商業の拠点となってきましたが、現在もその機能は、いささかも衰えていません。

本市の人口1人当たり販売額では武蔵野市、立川市に次いで第3位にランクされています。

これからは、この商業規模を商店経営に生かし、商業体制の整備



駅前商店街

にいつそう努力を傾けなければならないでしょう。それだけでなく、最近、先進商業都市の発展が進み、地元および近隣市町への大型店舗の進出はめざましいものがあるからです。

今後、福生駅を中心とした商業地域を市民の憩いと快適なショッピングの場としてととのえ、本市のシンボルゾーンの一部として、これまでよりもさらに魅力的な西多摩の中心的商店街の形成をめざします。



駅前商店街

●無公害都市型工業への転換

本市の工業は、ほとんどが小規模経営ですが、今後は地域に密着した産業として、重要な役割を果たすものと期待されます。

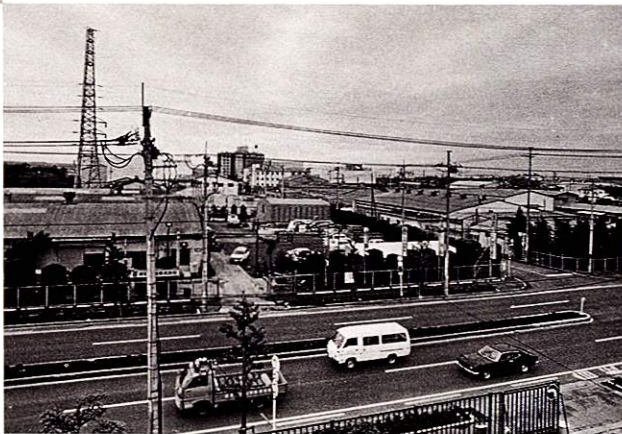
しかし、住宅地域内に混在しているなど、住環境とかならずしもマッチしているとは認められない現状にあるため、ややもすれば、公害問題が発生しやすい状況にあります。しかも、市はさらに都市化が進むものと考えられますので、公害問題はますます顕在化の可能性にあります。

そこで、市民生活の安全、快適性を考え、かつ住宅地域内に混在していることから、将来にわたって無公害の都市型工業への転換をはかっていきます。必要に応じて適地への集約など、その配置の検討と指導を積極的に進めます。

●都市近郊農業への移行

昭和33年の耕作面積は全面積の54.71%を占めていましたが、それでもそれより20年前のものに比べると140haの減少を示しています。このように、市でもひと昔まえは純然たる農村だったのですが、都市化の波に洗われ、耕地は減少しています。

しかし、耕地は、緑地を含む大切な都市空間として貴重な存在で



無公害都市型工業へ

あるため、さらに都市化に対応したそ菜、果樹、花き、苗木の育成など効率的な都市近郊農業への移行を促進し、市民の実践教育の場としての整備充実に努めます。



観光農園

●賢い消費者をめざして

消費生活の多様化・高度化にともない、商品もまた多様化し、有害食品、誇大広告、欠陥商品など消費者の安全と健康を阻害するケースが目立ってきました。

そこで、市は生活学校や消費者モニターなどを強化し、商品知識の啓発など、市民の自主的活動を育成し、賢い消費者を育てています。